

SUN たがな×ト。

大好きな三田をSNSで発信
感謝を原動力に恩返し

兵庫県立三田祥雲館高等学校

田中 志津妃 さん (右)
Shizuki Tanaka

樋口 華 さん (中)
Hana Higuchi

山手 舞花 さん (左)
Maika Yamate



▲ Instagram



「大好きな三田に恩返ししたい」。そんな想いから三田市の魅力を伝える動画を制作した県立三田祥雲館高校に通う田中さん、樋口さん、山手さん。市公式インスタグラム「うえるかむさんだ」で公開すると、再生回数は7万回を超えた。多いもので1万回程度だった三田市では、大バズりだ。

動画は学校の「探究」の授業の一環でチャレンジ。社会や日々の生活の中から、自ら問いや課題を見つけ、研究・発表を行う授業だが、3人は「初めにテーマを決めるのが大変だった」と振り返る。授業やニュースで聞く社会課題から選ぶと考えたが、「自分事」にならず、具体的な内容が思いつかなかった。「私たちのやりたいことはなんだろう」。話し合いを続け、身近なことに目を向けたときある気づきがある。それは3人が共通して「三田は人の温もりを感じるまち」という印象を持っていることだった。「バスの運転手さんが毎朝「いってらっしゃい」って声をかけてくれる」「困ってたら地域の人が自然と手を差し伸べてくれる」。共感が一気に広がり、「三田に貢献できる探究を」と、市について調べ始めた3人。すると、人口減少や少子高齢化が重要な課題であることが見えてきた。「高校生の私たちに何ができるか」。それを探するため、市移住定住促進課を訪問し、市の現

状や取り組みを知った。「三田の住み心地の良さを知ってもらい、子育て世代の移住・定住につなげよう」――探究のテーマが決まった。

さらに「市のインスタで配信してみても」と市職員から提案が。戸惑いもあったが挑戦を決意。大人との打ち合わせなど慣れないことばかりだったが、「高校生だからと遠慮せず、対等に接してくれたことが心強かった」と山手さんは振り返る。努力が形となり、多くの人に届いた経験は自信となり、地域づくりに関わりたいという夢もできたという。「大切なのは勇気を出して行動すること。それを学べました」と3人は笑顔を見せた。

現在は探究発表会に向け、新たな動画制作を進めている。「このまにに住みたいと思う人が一人でも増えてほしい」と樋口さん。地域の未来を担う若い力が、これからも三田の魅力を発信していく。

当初はテーマ選びに難航した3人ですが、決定後の行動力には目を見張るものがありました。このバイタリティ溢れる経験が、彼女たちの輝かしい未来につながることを願っています。



兵庫県立三田祥雲館高等学校 教員
玉真 あかりさん